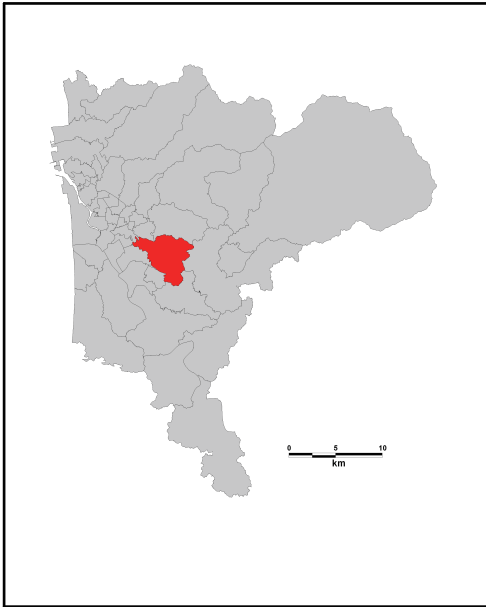
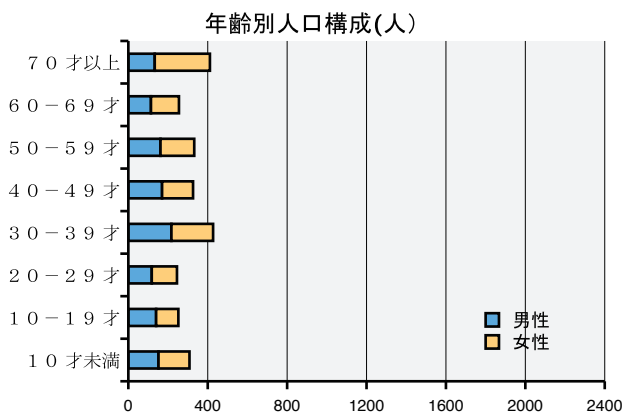


## 位置図



## 1 居住者の現況

人口(人)	2,556
世帯数(世帯)	964
65歳以上人口(人)	545
65歳以上世帯(世帯)	198
5歳未満人口(人)	136



## 2 建物に関する指標

### ■ 構造別建物棟数(棟)

木造建物	1,256
非木造建物	78
合計	1,335

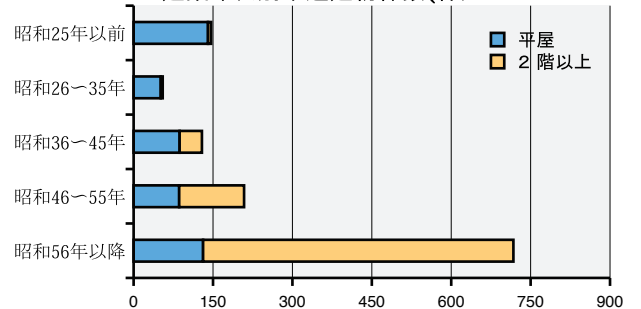
### ■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

建築年	平屋	2階以上
昭和56年以降	131	586
昭和46年～昭和55年	86	123
昭和36年～昭和45年	87	42
昭和26年～昭和35年	51	4
昭和25年以前	141	6

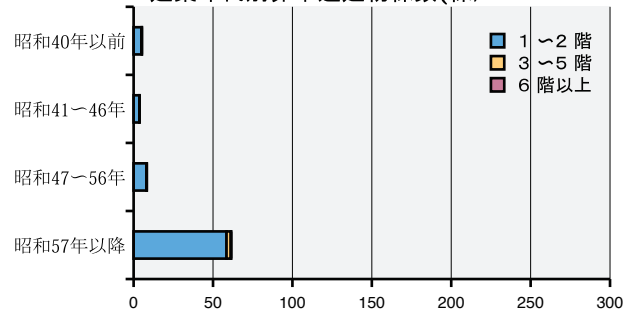
### ■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

建築年	1～2階	3～5階	6階以上
昭和57年以降	59	3	0
昭和47年～昭和56年	8	0	0
昭和41年～昭和46年	4	0	0
昭和40年以前	5	0	0

建築年代別木造建物棟数(棟)



建築年代別非木造建物棟数(棟)



## 自然的・社会的基本指標

秋田市域の中央部に位置し、全体に比較的なだらかな山地が広がる。ほぼ全域に危険箇所が分布する。集落は谷底平野部に点在しているが、学校区の西端部の低丘陵部では土地開発が進められ住宅が増加している。人口構成では、全年代ほぼ同じ比率となっている。65歳以上の高齢者層は、21%である。建物は、木造建築物がほぼ全数を占め、中高層建築物は少ない。昭和56年代以降の建築物が全体の58%である。

### 3 急傾斜地等の現況

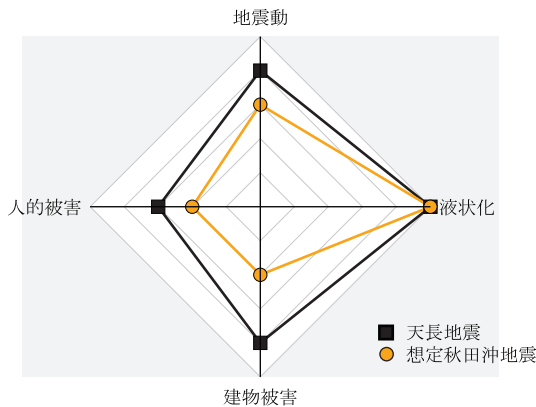
指定種別(箇所数)	箇所名
急傾斜地崩壊危険箇所(43)	前田、荒巻、諏訪ノ沢、苗代沢、四ツ小屋、館ノ下、砂子沢、大杉沢、百崎 他
なだれ危険箇所(33)	荒巻、ニタ子沢、四ツ小屋、砂子沢、寺ノ沢、脇ノ田、大杉沢 他
地すべり危険箇所(0)	該当箇所なし
土石流危険溪流(64)	猪ノ沢、大杉沢、苗代沢、脇ノ田沢、太平沢沢、猿田沢、砂子沢沢、中谷地沢、ニタ子沢沢 他

### 4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

#### ■ 被害想定結果一覧表

	天長地震	想定秋田沖地震
平均震度	6 弱	5 強
液状化危険度	ランク 5	ランク 5
木造建物大破数(棟)	125	20
非木造建物大破数(棟)	4	1
死者数(人)	10	1

被害想定結果レーダーチャート



#### レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

#### 地震時危険要素

天長地震を想定した場合、平均震度が6 弱となる。液状化する可能性は一部でかなり高い。建物の大破被害は120棟程度となる。死者も10人程度と想定される。

想定秋田沖地震では、平均震度は5 強となり液状化する可能性も天長地震を想定した場合と比較して低くなる。それに伴い建物の大破被害は20棟程度である。死者が発生する可能性がある。

#### 津波に対する危険要素

津波による浸水の危険性はないものと見られる。

### 5 防火・防災施設に関する指標

#### ■ 消防関連施設

消火栓数(箇所)	50
防火水槽(箇所)	25
消防車台数(台)	4
消防ポンプ数(台)	3
消防団員数(人)	78

#### ■ 避難所/避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員(人)
上北手小学校	屋内	274
上北手地域センター	屋内	42
上北手小学校グラウンド	屋外	2,750

#### ■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田南消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院数	1
最寄の救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	14

#### ■ 学区内の主要な公共施設

施設名	住所
上北手地域センター	上北手猿田字四ツ小屋29-1

#### 防災上の課題と対策

上北手小学校区内では猿田川に沿う低地部に散在する集落群が主体となっているが、西部の台地上に新興の住宅地(山手台)が形成されている。猿田川沿いの集落の多くは、土砂災害およびなだれ危険箇所に隣接もしくは指定範囲にあることから、集落単位で災害時の情報連絡体制および一時避難方法などを検討しておくことが望ましいとともに、住民自身が災害時に的確な判断を下せるよう、防災関係の知識並びに情報の周知が重要である。山手台については、人口が新たに急増している地区であることから、地域の協同・相互補助の体制の醸成・強化を図るよう働きかけていく必要がある。地域の特性を考慮した避難訓練等を実施することが有効であると考えられる。